

独立行政法人大学評価・学位授与機構運営委員会（第22回）議事要旨

- 1 日 時 平成22年2月24日（水） 13:30～15:30
- 2 場 所 学術総合センター1112会議室
- 3 出席者 池田，岡澤，荻上，上條，川村，北原，高坂，河野，古城，島田，城山，瀧田，中島，西村，二宮，丸山，六車，安原，米山の各運営委員
（阿知波，猪木の各運営委員は委任状提出）
平野機構長，川口理事，工藤理事，一居管理部長，小杉評価事業部長，山野井監事ほか機構関係者
- 4 第21回運営委員会議事要旨について
確定版として配付された。
- 5 議事
 - (1) 教員等の選考について
専任教員5名並びに評価研究部長及び学位審査研究部長の選考について審議が行われ，原案どおり了承された。

(○：運営委員 ●：事務局 以下同じ)
○ 時代はどちらかというのと定年延長制の時代であり，果たして65歳定年が正しいのか，特に評価を指導されるという立場であれば，もう少し定年を延長したほうがいいのではないかと思うが，どのように考えているか。
● 当機構の教授は，信頼性を持ち，かつ全体の動きを把握するということからすると，大学等のこれまでの経験というのは大変重要であり，同様の理由から，今，大学では定年が延長されているところである。しかし，独法はご存じのように，もう「余人をもって」というのはほとんど許されない状況であるわけだが，審査を受ける方々及び審査をしてくださる方々において信頼がある人を採用するというのは，それなりの見識と年齢を含めた経験が要ることなので，ご理解を賜るよう検討したいと思っている。

(2) 会長一任による各種委員会委員等の追加発令について
国立大学教育研究評価委員会専門委員1名について，会長一任により追加発令が行われた旨の報告があり，承認された。また，これまでと同様，欠員補充等の必要が生じた場合は，その選考を会長に一任することとされた。

(3) 本機構に対する総務省の二次評価及び独立行政法人をめぐる状況について

総務省政策評価・独立行政法人評価委員会による二次評価結果及び独立行政法人をめぐる状況について報告があった。

- 入札について、機構は随意契約と一般競争入札の2方式だけを採用しているのか。
- 全体的に競争性を確保した一般競争と、競争性のない随意契約ということになるが、そのほかに企画競争といったものもある。
- 専門性の高いものを一般競争にすると、やはりこれはお金だけの問題になるので、問題がある場合が多いと思う。一方で、随意というと、やはりこちら側の恣意が入るといふ可能性がある。できれば企画競争、プロポーザル方式、あるいは総合評価方式みたいなものが多分あるのだろうと思うので、少し工夫されると、随意契約を避けることができるのではないかと思う。

(4) 役員給与規則等の一部改正について

前回の運営委員会で機構長一任となっていた給与関連規則の改正についての報告と、平成22年4月1日施行を予定している改正規則について審議が行われ、原案どおり了承された。

- 年休の消化率はどれくらいか。
- 職員の健康管理については、機構内に衛生委員会があり、毎月、個々の職員の勤務時間、休暇の状況をすべて把握している。特段の問題もないので、他と比べて非常に少ないということはない。
- 私立大学では、業務が非常に煩瑣になって、職員がメンタルな問題で悩んでいる。私の大学もそうだが、結局、年休消化率がなかなか上がらない。その辺を考えると、年休消化率を引き上げるための工夫がもう少しあってもいいのではないかという気がする。
もう一つ、休暇との関連だが、勤勉手当というのは、英語でどう表現して、例えば海外へ情報発信しているのか。外国の大学で説明しにくいようなシステムをしている一方で、年休消化率が50%前後だと言われると、何か違うような気がする。大学とか研究機関というのは伝統的にそうやってきているが、それを何とかしてグローバルスタンダードにある程度合わせていかないとという気がする。
- 海外の話が出たが、私が知っている限りでは、特にアメリカでは基本的に年俸制をとっており、自分で主張して給与交渉もするというのが多いので、おそらく先生がご質問

されたことはあるのかもしれない。ましてや勤勉手当というのは日本独特ではないかと思う。当機構は、国家公務員に準じていかない限りは特別なことはやりたくてもやれないが、ただ、休暇を取れるような努力をということはしているところである。

- 統計的ではないが、実態的に見て、精神的な問題を抱える人たちというのは、必ずしも勤務時間が長いという人たちではないというところにも課題があるのではないか。過去の職員に求められた仕事も能力も変化してきている現状に、職員自身も運営体制も対応しきれていないことに起因することもあるのではないかと思う。私の大学だけなのかどうかかわからないが、企業にはない特別休暇というのがあり、夏、冬、春、それぞれかなり多くの休暇を持っているので、必ずしもほかの職種と比べて大変になっているということはないのではないかということを実感している。

(5) 評価事業及び学位授与事業について

評価事業及び学位授与事業の状況について報告があった。

- 諸外国の高等教育分野における質保証システムの概要というパンフレットについて、これは今、特に評価について関心が高いので、こういうものができるということは非常にいいことだと思うが、例えばどういうプロジェクトを組んだのかとか、機構長の序文みたいなものがあって、どういう関心でこういうことをやったのかということがどこかにあるといいかなという気もする。それと、せっかく比較しているので、ある程度フォーマットをそろえて、国ごとに比較できるような形であるともものすごく資料として意味があると思う。
- これは、各国のでき上がった順にお示ししているのですが、こういうことになっているが、実はウェブページでは日本から始まって全て見られるので、その一番前にはおっしゃるようなことが書いてある。

ご質問の2番目に関して、例えばアメリカ合衆国版だと、こちらのほうで一応日本語でつくって英訳した上で、これはアメリカ合衆国のCHEAという評価機関の全体のアソシエーションで全部チェックしてもらっている。ただ問題は、制度のほうもどんどん今変わっているので、ここまでつくった途端に多分バージョンアップということがこの次に出てくると思う。

- 中身のチェックは向こうできちっとやるのが大事だと思うが、やはり我々の視点が

何かということでもとめていただくといいと思う。

- もう1つは、この中に使われる言葉自身が国ごとに意味合いを共通化するところはおかないといけないので、ご存じのようにグロッサリーを作って、各国の用語の変換をしている。これがまとまってくれば、英語、中国語、韓国語、日本語というふうに、同じように横並びで見ることができるようになるので、いろいろご指導いただきたい。

6 次回の運営委員会は、平成22年3月15日に開催することとされた。

以上